

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会 180号



さくら

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認
毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行

もくじ
目次

さまざまな価値観と出会い、対話する年に	2
東北の仲間を応援しよう!の旅	4
私たちは地域で暮らしているんだ	5
新人紹介	5
人とのつながりを感じられた「ポジ祭」	6
『ダンスコンサート』分科会報告	7
カフェタカオ再開しました	8
~ピープルファースト大会に参加して~	9
メンバーの立場に立って気付いたこと	10
みらくるクラブ通信	11
活動のあと	12

さまざまな価値観と出会い、対話する年に

あけましておめでとうございます、とご挨拶を交わした方もまだ数名だという元日の夕方、能登半島で大きな地震が起こりました。この原稿を書いている4日現在、まだまだ被害状況もわからないまま情報を集め、祈ることしかできない時間を過ごしています。昨年はロシアのウクライナ侵攻の長期化、イスラエル・パレスチナ紛争による戦闘激化など、世界各地での争いによって多くの人命が奪われました。戦争が話題になる時、私たちはすぐにどちらが正義かを判断し、一方の国への支援の必要性を論じます。しかし、どちらの国においても多くの尊い命が奪われてしまっているのです。戦争を早く終結させるための支援と同時に人道支援が必要です。どんな理由があっても、殺人が正当化されることはあってはならないのです。わずかなことであっても、各々が判断して行動することが求められているのだと思います。もう十数年前になりますが、中国産の食品に異物が混入している事件が発生し、日々のニュースになることがありました。その話題を知人の中国人留学生と話していると、彼は「そんなことは中国では当然のことだ。安い食品には異物が混入しているのが私の地域では常識だ。だから、異物を取り除いてから食べるべき。安全な食品が欲しければ、日本のデパートで高いものを買えばいい。私の地域は貧しい人が多いので、仕方なく“安かろう悪かろう”を受け入れている面もあるが、経済的に余裕がある人でも“安全よりも安さ”を求める志向が強い。だから、日本人が騒いでいる意味がわからないんだと思う。」と話したのです。その時、私は自分の価値観に則って正義を主張するだけでは、歴史や経済、文化的背景の違う人とは通じ合えないことに気づかされたものです。

話を自分たちの足元に移します。子どもたちが活動するみらくるちっぴの現場に行くと、ケンカに遭遇することがよくあります。そんな時、子ども同士で収拾がつかなさそうであれば、間に入って一緒に話をすることにしています。それぞれから何が起こったのか、なぜそんなことになったのかと聞くと、最初は「▽※から殴ってきた」「☆▲から嫌なことを言われた」とそれぞれに自分の正当性を主張するのですが、紙にできごとや気持ちを書いて確認しながら時間をさかのぼっていくと、次第に自分たちが感じた“ケンカの原因”以前にケンカのきっかけがあったことに子どもたち自身が気づいていくことがあります。そんな時、子どもたちは「え？それはゴメン」「そんなことされたら、自分も嫌や」と大人に言われなくても自然に謝ったり、反省したりしはじめます。自分の思い・主張を十分に聞いてもらった後であれば、他人の思いを聞いたり、自分に照らし合わせて他人の思いに立つこともできていくようです。

大人がジャッジ（判断して結論を出すことを）しなくても、“対話”の中で、子どもたち自身が解決する力を育てていくのです。

みらくる ゆーすと（中高生の活動）では昨年、こども哲学を始めました。子どもたちが選んだテーマ「なぜ勉強するのか」「友達とは」など正解のない問いについてグループで対話しながら考えを深めるプログラムです。参加者がさまざまな意見を発することで他人の考えを受け入れ、自分の思考を深め、固定観念にとらわれず、自由に考えていく取り組みです。「友達とは」という回では、「お互いに信頼しあえるのが友達だと思う」という子もいれば、「よくわからない。でも、相手が“友達”と思ってくれたら友達なのかも。」「“仲良し”だとは言えるけど、“友達”とは言い切れない」など、言葉に対するイメージの違いや、相手の気持ちに対する不安な感情など、それぞれの子どもたちが普段の活動ではあまり表出しない意見を出して考えていきました。私自身、子どもたちと対話するとハッとさせられることも多く、自分の凝り固まった価値観を揺さぶってくれる活動にワクワクします。

複雑な背景を持つ国同士の争いと個人の争いを同等には論じられませんが、各々の文化や歴史的背景を知ることもなく、ニュースなどの“偏っているかもしれない”情報を鵜呑みにして安易に一方の正義を判断してしまうことには危険性を感じます。昨年読んだ朴沙羅さん著『ヘルシンキ 生活の練習』に、フィンランドで我が子が受けた教育について「思いやりや根気、感受性といった“性格”や“性質”だと思ってきたことが、この保育園では練習すべき、あるいは練習することが可能な“技術（スキル）”だと考えられている。スキルはすべて、一歳から死ぬまで練習できると考えられている。」というようなことが書かれていました。スキルが足りなければ、何歳になってもトレーニングすればいい、という発想に勇気づけられました。まずは、“正しく知る”ための行動をしたいものです。

当会でも外国人職員が少しずつ増え、共に働くようになりました。言葉の違いにとどまらず、文化や価値観の違いに戸惑うことも多く、現場には負担感があることも認めませんが、わからないことが前提となっているため、“知りたい、伝えたい”とお互いに努力することの積み重ねが、日々の支援の質の向上につながることも期待しています。私たちに足りないのは“対話する力”だと日々感じています。物事の本質を捉えようと努め、対話する力を高めるためにトレーニングを続け、必要な時にはすぐに行動したいと思っています。今年もさまざまな価値観と出会えることを楽しみつつ、“共に生きる社会”の実現に向けて、歩んでいきたいと思っております。良い年になりますように。

（勝井操）

東北の仲間を応援しよう！の旅

「東北・・・家壊れた人とか。どうしてるのかな？また行きたいな～」と、ある日のどんどん会議での北山さんの一言。どんどん会議とは週 1 回開いている当事者会議のことです。ちょうど、2023 年度の自立生活センター・どんどん（当事者団体：以下どんどん）の目標を考えているときでした。この北山さんの一言から、2023 年度の目標の一つは「東北の仲間に会いに行こう」に決まりました。これまで宮城県登米市で障害児・者の支援活動をおこなう“奏海の杜”と交流を重ねてきました。今回は、その奏海の杜を訪れることにしました。

到着してすぐ、北山さんは代表理事の太齋さんと手を取り合い、再会を喜び合いました。また原田さんは大阪土産を手渡しました。まず案内されたのが、奏海の杜の隣にある古い小学校です。開校 150 年を迎える登米市立登米小学校は、趣のある落ち着いた雰囲気



で、太齋さんはお気に入りの散歩コースだと教えてくれました。近くで昼食を済ませ、今度は奏海の杜を案内してもらうことに。母屋は天井が高く明るく暖かい空間で、離れは黒のスレートで覆われたおしゃれな印象でした。スレートは登米で産出する玄昌石で、以前は瓦として使われていました。奏海の杜では使われなくなった瓦を加工し、コースターやプレートとして販売しています。スレートは裁断機のような専用の機器で削って商品にしている、私たちも体験させてもらいました。離れではメンバー



3人が段ボール箱の仕切りを箱に詰める仕事をしていました。これが1個30円の儲けになる、というから驚きです。母屋ではその日は週2回のカフェ営業日だったため、コーヒーやマフィンをいただきました。私たちが支払いをしようとする

と聞かされたとき、北山さんは太齋さんに抱き着き「ありがと～！」と喜んでいました。3時になると、デイサービスを利用する子どもたちが続々とやってきました。みんな人懐っこく、初めて会う私たちの手を取って中を案内してくれたり、「名前は何？」と話しかけてくれました。北山さんは「なににな～」と言いながらも、子どもたちと笑顔で交流していました。一方、原田さんは名前を聞かれて答えるのがやっとの様子。対照的な2人の姿が印象的でした。

北山さんの一言から実現した今回の旅は、北山さんが今でも被災地の仲間のことを想っていると知れたこと、また長年繋がりのある太齋さんや奏海の杜のみなさんとの再会を喜び合えたことが何より嬉しかったです。また、前日に被災地を巡った話から、「被災地もすっかり綺麗に整備されて、震災のことを伝えるのが難しくなっている」という、太齋さんからの話が印象的でした。これからも東北の仲間との関係性を続けていきたい、そう思えた旅でした。

ひさまつしょうこ
(久松 祥子)

わたし ちいきく
私 たちは地域で暮らしているんだ

昨日の生野区一斉パトロールにて。塚本さんは毎年参加しておられるので、「こんばんは」「よろしくね」と、お声かけもあり、ご本人も照れながらも「うん」と笑顔で応えておられました。町内は何気なく、隊列は緩やかに長くのびていきます。最後尾を歩くご婦人の少し前を歩いていると、「歩けるかなあと思ったけど、しんどいなあ。来年は無理やなあ…若い人に任せるわ」。聞けば79歳で「歩くんしんどいから、自転車乗ってる」そうです。これが町内会の現状ですね。



さけみあつこ
(酒見 敦子)

しんしょくいんあいさつ おおくほ まさよ
新職員挨拶 ～大久保 雅代～

10代前半から学校と縁遠かったのですが、テレビでサグラダファミリアを見て勉強がしたくなり出席日数の影響がない短大の建築学部へ入学。その後、課題を見た教授から誘いをうけ大学美術学部へ編入学しリトグラフ版画での作品製作に熱中。アート活動を続けながら販売の仕事に従事。去年足が悪くなり2回の手術とリハビリの中、人生について真剣に考え、アートができてサポートが必要な方に何かできるお仕事を探し、出発のなかまの会に出会いました。どうぞよろしくお願いたします。

ひと 人とつながりを感じられた「ポジ祭」

2023 年も長居公園で被災障害者⇔関西ポジティブ生活文化交流祭が開催されました。今回で 14 回目のこのお祭り。2011 年東日本大震災での被災障害者救助活動で出会った人たちとのつながりを大切にしようと、50 近い団体が飲食やゲームなどのブースを出展しました。宮城県や福島県からも当事者の方が来られ、被災した際の話や現在の活動の様子をメインステージで発表してくださいました。

被災地を応援するところから始まったお祭りではありますが、大阪府下の団体がこんなにも一斉に集まるのは行政との交渉のとき、このお祭りかと言っていいほどたくさんの団体が参加しています。今では、東北や熊本などつながりのある方との再会や交流、他団体の方との交流など楽しめる場になっています。

当会は、クラフトビールとおつまみのセットを売りました。昨年は地元の今里クラフトビールを出させてもらったのですが、今年は、知り合いの当事者の方がラベルデザインをされたクラフトビールがあることを知り、お祭りの趣旨をお伝えし、売らせてもらう事になりました。当日用意したビールは完売。素敵なデザインの瓶のラベルを剥がして持ち帰られた方もいました。売る私たちもお客さんとのやり取りを十分に楽しみ、他団体さんの美味しい食べ物をたらふく食べ、お祭りを満喫することができました。そしてこの日、メンバーさん達がとってもお世話になった診療所の先生に再会することができました。診療所を辞められて 6 年ほど経ち、これまでお会いする機会がなかったのですが、ご近所に住んでおられ、当日立ち寄ったところ当会のブースを見つけ声をかけてくださいました。私が当時支援させてもらっていた朴さんもその診療所に通っておられ、ご本人が大変だった時期に親身になって支えてくださった先生です。朴さんがたまたまブースに遊びに来ていて、先生との久々の再会をしました。しかし朴さんは先生の再会より、今さっき買ったおつまみセットのウィナーとポテトサラダに気持ちがいっていたので、食べることに集中。慌てて食べる朴さんの横に先生は座り、「ゆっくり食べや」と変わらない優しい口調で声をかけてくださっていました。久しぶりに聞く先生の声に懐かしさと温かみを感じつつ、おいしそうに食べる朴さんと先生の 2 ショットをほっこりとした気持ちで見守ってしまいました。また来年、このお祭りでたくさんの方との交流と再会ができればいいなあと感じています。

いしだともこ
(石田智子)

『ダンスコンサート』^{ぶんかかいほうこく}分科会報告

ピープルファースト大阪大会が 10 月 13～14 日に開催されました。私は昨年の大会での楽しさが忘れられず今年の開催にわくわくしていました。メンバーさん達も「ピープルファースト行きます」と嬉しそうに教えてくれたり、「ピープルファースト行くぜー」と何度も言ったりと、みんな、ピープルファーストを自分達の大会だと思っているんだと感じました。



前日にパンジーさんでの準備作業に参加しました。1300 人分のチラシを袋に入れる作業では、足が痛いと座り込み椅子を出してもらったメンバーさん、1 枚 1 枚チラシを取る作業を嫌がっているメンバーさん、それぞれが頑張りました。その後、1 枚 1 枚チラシを取る作業を嫌がっていたメンバーさんは、まとまったチラシを袋に入れる作業のチームの移動し、更に頑張りました。これまで大会当日に参加するだけでしたが、今回はピープルファースト大会が色々な人たちの協力を得て、盛り上がっていき様子を見ることができました。

どんどんは 14 日に『ダンスコンサート』の分科会をしました。会場にはたくさんの参加者が集まり、開催時間が来ました。しかし、どんどんのメンバーさんたちは緊張しているのか進行する気配がありません。変な間が空きました……。私が Y さんと即興で簡単なダンスをしているとそれを真似て踊ってくれる輪が広がりました。イヤーマフを付けての参加者もいて音が苦手ならこういうプログラムは無理かなと考えがちですが、笑顔で参加されていました。途中飛び入り参加の最年少と思われる 10 代の男の子もミラーボールがキラキラと光る様子や音を聞き動き回り楽しんでいました。そして、私がファッションで履いていた破けたジーンズを見て、「ジーパンおしゃれ、私も一緒に、私のも破けてる」と笑顔で話しかけてくれる女性がいました。私は日々自分が好きなファッションや髪色をしていて、メンバーにももっとおしゃれして欲しいので、この私のスタイルは変えずにいきたいと思いました。



フィナーレには後ろの方で感動して涙を流している参加者もいたようで、その興奮と感動は止まず、片付けが始まって参加者の方から「写真を一緒に撮っていいですか?」「私もいいですか?」と写真撮影会になりました(笑)。一日、ダンスして飛び跳ねて楽しんだ私の太ももは悲鳴を上げ次の日はしっかり筋肉痛でした(笑)。今回の参加者の皆さんとまたいつか会いたいと思えるダンスコンサートでした。

にしおかさとか
(西岡里香)

☕ カフェタカオ^{さいかい}再開しました

ピープルファーストのカフェタカオが久しぶりに開催できることに決まり、まず、始めに 2019 年に新しく新調したユニフォームの試着からしました。タカオさんに着てもらうとニコニコと自然な笑みが見え両手を握って表現したり、両手に顔を乗せるポーズをとったりしている姿を見て楽しみが伝わるようでした。



このカフェタカオではコーヒー豆にもこだわりがあり、タカオさんの楽しみの一つとして馴染みの喫茶店の豆を使用させてもらっていました。ですが、コロナ禍の中やお店の工事なども伴い、しばらく行けなくなっていました。この機会に再び活動することになり、徒歩 30 分かけてその喫茶店に行きました。道中ではコンビニや自販機や別の喫茶店など気が移り変わりする様子の中でも店が見える 300m ほどでスイッチが入り勢いよく店まで直行していました。

大会当日、カフェタカオ専用の豆挽きを披露しました。コーヒーミルを回している最中にニコニコとしたタカオマスターの表情とコーヒーの香りが漂っていました。今回もアイスコーヒーを用意させてもらい、ホットとアイスを選べるようにしました。タカオマスターはアイスコーヒーがとても好きなようで、お客様が来られるたびに試飲をし、味を確認されていたようでした。

これからもカフェタカオを楽しみにされている方やこれからカフェタカオを知ってもらえるような出会いができるよう披露したいと思いました。

あきやま み ほ
(秋山美穂)



ありがとう
ございました

カフェタカオでの売上金 4,169 円をゆめ風基金に寄付しました。

～ピープルファースト大会に参加して～

ピープルファースト大阪大会の分科会「ダンスコンサート」に
参加した小道さんの感想です。



ピープルファースト大会は楽しかったですか？

ドラえもののうた、ピープルファーストのうた、みんなでおどりました。Kis-My-Ft2のうた、西岡さんとおどりました。たのしかったです。いろんな音楽をおどりました。たのしかったです。メイちゃん、ゴマちゃん、しろくまもたのしかったです。ゴマちゃん、しろくま、メイちゃん、音楽にのっていました。たのしかったです。

BTS音楽も、西岡さんとおどりました。児玉、石井、加納、久松、西岡、みんなでたくさんうたい、おどりました。たのしかったです。また、ダンスコンサートやりたいです。

ピープルファースト大会で友達に会いましたか？新しい友達はできましたか？

ピープルファースト友達はいません。ダンスコンサートがあって、名刺をくばることができませんでした。自己紹介カードをくばることができなかったです。名刺と自己紹介カードはグループホームでコピーしてもらいましたが、あんまりじかんがなかったので、くばることができませんでした。ほんとうはくばりたかったです。友達もつくりたかったですが、ダンスコンサートでつくることのできませんでした。ほんとうは友達をたくさんつくりたかったです。話もしたかったです。つぎまたダンスコンサートがあったら、名刺と自己紹介カードをくばりたいです。こんどはたくさん友達をつくりたいです。たくさんいろいろなお話をしたいです。メイちゃん、ゴマちゃん、しろくまの話もしたいです。わたしがすんでるおへやにある、ライブ、おしゃれのたくさんお話をしたいです。友達の話をききたいです。ダンスコンサートたのしかったです。

メンバーの立場に立って気付いたこと

昨年度から全従業員の必須研修となった虐待防止研修ですが、今年度の研修は支援の場を想定したロールプレイをして、“虐待”について考えました。“虐待”というと、ニュースや新聞などで取り上げられるもので、「私はそんなことはしない」と思っている支援者も多いかもしれませんが、しかし、自分たちにも無意識、無自覚のうちに、またわかっていても“仕方ない”とおこなっている“虐待”や“虐待の芽”はあるのではないのでしょうか。

ロールプレイの内容は、「本人の目の前でトイレの“失敗”を支援者間で引き継ぐ」「支援者の都合でお風呂に入るよう促される」「支援者の価値観で児童の行動を制限する、謝らせる」という場面について、当事者役、支援者役などそれぞれに設定されたセリフを音読します。読み終わったらグループ内で役割を替えて音読を繰り返し、異なる立場について考えられるようにしました。どの場面も支援者の都合や価値観が優先され、メンバーの思いが否定されたり、尊厳が軽んじられた場面を想定しました。ロールプレイのセリフではやや誇張した表現もありますが、実際に見聞きしてきたことに近い場面であり、身近に潜む“虐待”や“虐待の芽”であると思います。

ロールプレイの後に参加者で感想と意見を出し合いました。日々の支援の中で同じようなことをしていたと反省する人もいれば、このようなことは見聞きしたことがないと話す人もいました。見聞きしたことがないと話す人に対して具体的なことを例示すると、そういえば似たようなことはあるかもと気付く人もいました。

時には、メンバーに介助を拒否されたり、無視されたり、限られた支援体制の中で時間に追われたりと、支援は本当に難しいです。うまくいかないことの方が多いのかもしれませんが、それでも“虐待”や“虐待の芽”を生み出す支援するためには、メンバーの思いを丁寧に聞き、支援者の都合でメンバーに動いてもらうのではなく、メンバーがしたいと思えるような気持ちになるのを根気強く待つことが大切なのだと思います。また、メンバーの生活の主体はメンバー自身で、支援者はあくまで主体であるメンバーの生活をサポートする存在であることを忘れず支援することも大切だと思います。

当会のメンバーは自分の思いを訴えにくい人が多いです。今回ロールプレイを通して、メンバーの立場に立ってみることで、自分ならこのように支援してほしい、こういう支援は嫌だと感じたことが支援者の中にもあったと思います。このような気づきに繋がる研修を今後も考えていきたいと思っています。

(廣澤新平)

みらくるクラブもちつき

松野農園で久しぶりのお餅つきをし、たくさんの方に参加していただきました。今回は未就学児の子も多く、杵と臼でお餅をつくのが初めての子もたくさんいて、蒸したもち米を臼に広げるのを見て、「え？お米？もちつきなのに!？」と目をまんまるにして驚く子もいました。蒸したもち米はすぐにお父さんやボランティアの方にこねてもらい、ある程度ついてお餅に近い状態にしてから、子どもたちにも順番に提供してもらいました。みんな食べるのも楽しみですが、つくのも楽しみということもあり、松野農園の畑に餅をつく人の行列ができていました。3歳の A君も、お餅つきが初めてで、つくのを楽しみに待っていました。杵は大人用と子ども用があり、子ども用でも1キロ弱ほどあり、小さい子には重たいので大人と一緒に持ってついていましたが、A君は大人が手伝おうとすると「一人でする!」と言い、手伝いを断っていました。「よし!一人で頑張る」と応援し、杵を持ち上げるところだけ少し手伝うと、一人で杵を振り下ろしていました。

できあがったお餅は、お母さんたちが切り分けてくださり、それぞれ食べる分を丸めて食べてもらいました。用意したトッピングのきな粉、あんこ、納豆、大根おろしに焼きのりなど、それぞれ好きな味のお餅をつくり、お腹いっぱい食べていました。中にはお餅とは別に、焼きのりやきな粉だけを食べる子もいましたが、それはそれでおいしく、楽しかったようで、用意したトッピングも最後はきれいになっていました。

「お餅つきは行かない。お餅は嫌いだから食べない」と言っていた B君(4年生)もお母さんと来ましたが、「畑で虫を探す」と言って、室内には入れずにいました。みらくるちっぷで一緒になる子たちが畑にいる B君に声をかけに行ったりして、なんとか室内には入りましたが、リュックも下ろさず、エプロンなども「したくない」と言っていました。しばらくすると気持ちも少しずつ変わり、大人の手を持ち、その手をロボットのように動かして焼きのりを取らせて食べたりして、徐々に参加することができ、最後はリュックを背負ったままお餅をつき、ついたお餅も食べていました。その時の気分や状況に合わせてながら、それぞれの楽しみ方ができたようでした。

みらくるクラブは、みらくるちっぷを利用している子どもやそのきょうだい以外にも、様々な形でつながり、活動に興味を持っていただいた方が参加しています。今回はお子さんがみらくるちっぷを利用していないご家族、5組の方が参加してくださいました。その中のある親御さんに近況をお聞きすると、保育園の対応の固さに悩んでおられましたが、お話の最後に「皆さん温かい雰囲気、来て良かった」とおっしゃってくださいました。みらくるクラブの活動を通し、一緒に笑い合い、声を掛け合う中で、親御さんにとっても“参加して良かった”と思える活動になったことを嬉しく思いました。これからもつながりを大事にし、子どものパワーに負けないよう、大人も楽しんで元気になる活動にしていきたいと思えます。

※本記事は「みらくるクラブ通信」から転載しています



活動のあと

- 9/1 グループホームスタッフ全体会議
- 9/5 消防設備等法定点検①
IKUNO サラダボウル・プロジェクト食交流会(松野農園)
- 9/6 消防設備等法定点検②
- 9/7 安全委員会/生野区相談支援事業所連絡会役員会
~9/8 ソーシャルワーク実習生受入(桃山学院大学)(8/7~9/8)
- 9/11 自主勉強会
- 9/13 執行委員会/生野区学童期子ども支援連絡会役員会
生野区グループホーム連絡会世話人会
- 9/14 出発通信発送
- 9/15 職員研修受入れ(イエス団)
- 9/16 みらくる学習会
- 9/16~10/7 内部研修(虐待防止及び身体拘束等の適正化に関する研修)
- 9/19 実習見学受入会議
- 9/20 生野区学童期子ども支援連絡会
- 9/21 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
生野区相談支援事業所連絡会
- 9/22 ビロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会
障大連運営委員会
- 9/23~24 みらくるクラブ【キャンプ】(高取山ふれあい公園)
~9/24 インターンシップ受入終了(大阪経済大学)(8/1~9/24)
- 9/25 障大連事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議
- 9/27 生野区 NPO 連絡会
- 9/29 執行委員会
- 9/30 内部研修(発達障害勉強会)
- 10/2~11/20 ソーシャルワーク実習生受入(関西大学)
- 10/4 研修委員会/生野区相談支援事業所連絡会役員会
- 10/5 内部研修(新入職員研修①)
- 10/6 グループホームスタッフ全体会議
- 10/7~21 「idea の島々」絵画展 出展(奈良・ラスパ西大和)
- 10/11 執行委員会/生野区学童期子ども支援連絡会役員会
生野区グループホーム連絡会世話人会
NPOHIT 理事会
- 10/12 内部研修(新入職員研修②)
- 10/13~14 ビープルファースト大会 in 大阪
- 10/14 IKUNO サラダボウル・プロジェクト交流会(松野農園)
- 10/17 実習見学受入会議
- 10/18 生野区学童期子ども支援連絡会
- 10/19 内部研修(新入職員研修③)/ハローワークバーチャル
見学会 /不登校・ひきこもり支援連絡会
- 10/20 生野区相談支援事業所連絡会
- 10/24 消防署立入り検査
- 10/25 大阪市子ども青少年局との意見交換会
生野区 NPO 連絡会 研修会
- 10/26 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
内部研修(新入職員研修④)
- 10/27 執行委員会/ビロン(松野農園)/障大連運営委員会
- 10/28 内部研修(発達障害勉強会)
- 10/29 IKUNO サラダボウル・プロジェクトいくのパーク万国夜市出店
- 10/30 生野未来学園 サツマイモ観察(松野農園)
- 10/31 上半期どんどんプロジェクト会議
- 11/1 グループホームスタッフ全体会議
- 11/2 内部研修(新入職員研修⑤)/ハローワーク就職フェア出展
- 11/2~30 生野区民ギャラリー 絵画出展
- 11/4 内部研修(てんかん研修)
- 11/8 生野未来学園 サツマイモ収穫(松野農園)
coco sasayama 収穫体験/生野区グループホーム連絡会
生野区学童期子ども支援連絡会役員会
- 11/11 内部研修(発達障害勉強会)
- 11/12 内部研修(職員パワーアップ会議)
- 11/13 自主勉強会
- 11/13~11/22 ソーシャルワーク実習生受入(関西大学)
- 11/13~11/26 ソーシャルワーク実習生受入(四天王寺大学)
- 11/15 どんどん対市交渉勉強会/生野区学童期子ども支援連絡会
- 11/16 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
- 11/17 執行委員会/聖フランシスコ会生野みんなの家理事会
- 11/19 みらくるクラブ【もちつき】(松野農園)
- 11/20 大阪市実地指導(生活介護)
- 11/21 実習見学受入会議/生野区相談支援事業所連絡会
- 11/22 内部研修(職員ミニパワーアップ会議①②)
生野区 NPO 連絡会
- 11/23 IKUNO サラダボウル・プロジェクトバーベキュー交流会
第 14 回被災障害者⇄関西ポジティブ生活文化交流祭
- 11/24 ビロン(松野農園)
地域共生ケア生野推進委員会 研修「ハラスメントについて」
- 11/26 太極拳発表会(第 8 回みんなでゆ〜楽太極拳)
- 11/27 障大連事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議
- 11/27~12/22 ソーシャルワーク実習生受入(桃山学院大学)
- 11/28 内部研修(職員ミニパワーアップ会議③)
どんどん対市交渉勉強会
- 11/29 執行委員会
- 11/30 内部研修(職員ミニパワーアップ会議④)/内部研修(外国籍
の人向けの日本で働くことについてのレクチャー)
- 12/1 グループホームスタッフ全体会議
- 12/9 桃山学院大学安原ゼミ来訪(松野農園)
- 12/12 理事会/大阪市オールラウンド交渉①
- 12/13 大阪市オールラウンド交渉②/生野区グループホーム連絡会
生野区学童期子ども支援連絡役員会
- 12/15 執行委員会
- 12/16 内部研修(発達障害勉強会)
- 12/17 大阪障害者自立セミナー2023
- 12/19 実習見学受入会議
- 12/22 ビロン(松野農園)/生野区相談支援事業所連絡会
地域共生ケア生野推進委員会役員会/障大連運営委員会
- 12/25 障大連事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議
- 12/26 門松づくり
- 12/27 生野区 NPO 連絡会
- 12/28 餅つき(生活介護)
- 12/29 執行委員会

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行

発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町二・二

東興ビル4階

頒価百円

編集後記

2024年がはじまりました。今年もよろしくお願ひいたします。昨年末は、暑くなったり寒くなったりを繰り返し、服選びに迷う日がありましたが、風邪などひいていないでしょうか？本年もみなさまにとって良い年でありますようにお祈り申し上げます
(河合次郎)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
〒544-0011
大阪市生野区田島1-10-30
たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749
郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
ホームページ <https://www.tabidati.jp/> 750 部